

(広域異動終了者)

氏名	鳥海 陽一	現任校	厚沢部町立厚沢部中学校 (松山)	前任校	函館市立本通中学校 (渡島)
----	-------	-----	------------------	-----	----------------

○現任校での勤務状況

分掌は、教務部に所属し、主に時間割作成を担当しております。教科指導については、2・3年生の理科の担当です。担当学年は2年生で、2年A組の担任です。男子14名、女子11名、計25名の生徒が学級にいます。

本校は、厚沢部町内の3校が統合して2年目です。何事も手探りであった去年の反省を生かし、業務を進めています。また、保護者の皆様や地域住民の方々の教育の関心が高く、恵まれた環境で教育活動を行うことができます。



○広域異動により経験できたこと

広域異動で勤務させていただいた学校は、生徒指導に力を入れている学校でした。私が前任校で一番勉強になったのは生徒指導の基本的な考え方を学べたことです。前任校である本通中学校は、「かつて1日に何件も生徒指導が発生していた状況を教職員の努力で変えてきた」という自負が随所に感じられる学校でした。その自負を支えているのが、教職員全員が共通意識をもって指導するためにつくられた生徒指導のシステムです。学年や指導部が一丸となって、どんな事例であっても徹底的に対応していく姿勢と手法を学びました。地域の特性や学校の規模によって生徒指導の在り方は違うため、学んだ手法をそのまま現任校に使うことはできませんが、大切にすべきことは変わらないと思います。もう一つ、勉強になったのが教科指導です。広域異動期間中は毎年、研究授業をさせていただく機会がありました。研究授業の準備は大変でしたが、苦勞した分だけその分野への理解が深まり、今までは知らなかった指導方法を学ぶことができました。忙しい業務の合間を縫って、函館市の研究会の方々とともに議論を重ね、何度もやり直ししながら授業を作り上げていくことが大変勉強になりました。

○広域異動の期間中に苦勞したこと

全校集会や体育祭での全校練習などで、600人以上の生徒を動かすことに苦勞しました。全校生徒を動かす役目を担当することは数回程度でしたが、すべての学年・学級が滞ることなく予定を消化するには、想像以上に細かいところまでイメージして計画を立て、指示を出す必要がありました。自分の想定の甘さに力不足を感じるが多かったです。もう一つは、教職員間の連携です。一つの学年のクラス数が多いため、「全学級共通で指導する内容」と「各学級の裁量で指導すること」を学級間で共有する必要がありました。ある程度学年共通で指導する枠組みがきまっているため指導しやすい側面もありましたが、細かいところの指導の方向性が学級ごとに分かれることがありました。そのたびに教職員間で議論してまとめることが大変だった記憶があります。

○広域人事異動を希望する教員へのメッセージ

地域が変わると、生徒指導・教科指導を含め教育活動への細かい考え方の差に気付かされます。他管内での経験がうまくいかせないこともあると思います。でもその感じた差こそが広域異動で得る必要がある経験であり、学ぶべきことだと思います。教師として成長できるチャンスがたくさんあると思いますので、ぜひ挑戦してほしいと思います。

(広域異動終了者)

氏名	永田 尚子	現任校	旭川市立緑新小学校（上川）	前任校	斜里町立斜里小学校（オホーツク）
----	-------	-----	---------------	-----	------------------

○現任校での勤務状況

緑新小学校は、全校児童数がおよそ380名で、各学年2学級あります。それに比べて、前任校の斜里小学校の全校児童数はおよそ330名とやや人数は少ないものの、学級数は同じです。学校規模が変わらなかったということもあり、広域異動を終えて旭川で勤務するようになって、勤務の状況はほぼ変わりませんでした。



2年目の現在は、3年生30名のクラスを担当しています。昨年度とは違ったカラーをもつ子どもたちを、今年度はどのような手立てで育てていこうか、毎年のことながら試行錯誤しながら日々教育実践に励んでいます。幸い、昨年度同じ学年を担当していた先生と、今年度もまた一緒に学年を組んだため、学級・学年経営の方針等を互いに理解した上で4月をスタートでき、様々な業務がスムーズに進んだように感じています。

校務分掌は、この2年間、文化部を担当しています。1年目は、図書の担当だったので、図書館司書の先生と深い繋がりをもつことができました。そのおかげで、授業に必要な本を気軽に相談することができました。また、司書教諭が行っている図書館の楽しいイベントに私も関わったことが影響してか、クラスの児童がたくさん本を借りて読むようになりました。2年目の今年は、校内掲示や学芸発表会の担当をしています。学芸発表会は、今、練習の真っ只中です。多くの先生方の協力を得ながら、準備を進めています。

○広域異動により経験できたこと

町をあげてのお祭り「斜里町ねふた祭り」に、参加したことが良い経験です。約1か月前から、総合の時間などを利用して、お囃子の練習や山車の制作に取り組みます。これらを指導するには苦労しましたが、地域の伝統を守り伝えるという地域の人たちの願いに触れ、子ども達と一緒に楽しく参加することができました。

どこの学校にも特色があって、それぞれの地域の特性があると思います。一方で、子どもはみんな同じであり、先生方の熱意やチームワークは、やり方や視点は違ったとしても変わりはないと、斜里小学校に勤務して再認識しました。

○広域異動の期間中に苦労したこと

斜里岳や海別岳、オホーツク海を見ながらの通勤は爽快なものでした。が、冬場の地吹雪の中での通勤は大変でした。

○広域人事異動を希望する教員へのメッセージ

他管内の様子を知り様々な経験ができることが、魅力なのはもちろんです。でも、私にとって一番良かったことは、他の地域の先生方と繋がりをもつことができたことです。斜里小で共に勤務した先生方が、今も斜里町で、そして、美幌町や札幌市、北見市などで活躍されています。情報交換をしたり、「今度、斜里会を開いてみんなで集まろう。」などと話したりもしています。得難い同志を得ることができるのも広域人事のよさだと感じます。

(広域異動終了者)

氏名	阿部 志保	現任校	留萌市立緑丘小学校 (留萌)	前任校	旭川市立大有小学校 (上川)
----	-------	-----	----------------	-----	----------------

○現任校での勤務状況

上川での広域人事の交流を終えて、3年が経ちました。あっという間の月日だったと感じます。留萌に戻ってからは高学年を2年間、そして今年は4年生34名を受けもっています。にぎやかな児童とたくさんの学校行事や日々の授業を行うことができ、充実した毎日です。

○広域異動により経験できたこと

同じ学校でも地域によって、そして学校によって違うことがありました。それをその場にながらにして経験できたことは大きかったです。学校行事の実施時期や内容、そして分掌の編成の違いなど、様々な考え方ややり方にふれることができました。中でも、勤務させていただいた学校では全職員が一丸となって授業改善や学校の組織力の向上を図っていたこと、そこに自分も加わって、「チーム大有」として一緒に進めることができたことは私の大きな財産になっています。



○広域異動の期間中に苦労したこと

3年間という広域異動の期間があるため、受けもつ学年や分掌に多少のしぼりがあったことくらいで、大きな苦労はありませんでした。たくさんの先生方のフォロー、そしてたくさんの気付きをいただき、自分を大きく成長させることができた3年間でした。

○広域人事異動を希望する教員へのメッセージ

他管内の学校視察や研究会の参加だけでは、気付くことのできない多くの経験を手にすることができます。学校、地域、そして児童の実態の違いから、どのような方策を立てているのかを一緒に考え、行動し、また、次に向かうという、この一連の流れをその学校に所属したからこそ、私は味わうことができました。

また、ここでの出会いによって、たくさんの先生方とのつながりも生まれました。今でも連絡し合う当時の同僚の先生と様々な情報交換をしたり、授業についての悩みを相談したりすることができます。これも広域人事で他管内に異動したからこそ得たものだと思います。人とのつながりは大きな宝です。

そして、元いた管内に戻ってきたときに自分の違いを実感することと思います。私は、行く前の自分とは違う自分になれたように感じました。狭かった視野に少し広さが出たように思います。そして、児童との関わりにおいて



も多面的・多角的に見られるようになった気がします。もちろん、道半ばではありますが、その視点を多くの先生方から与えてもらった、それに気付かせてもらったことだけでも広域人事で得た大きな収穫だと思っています。

3年間という長いようで短い期間ではありますが、行った者だからこそ得られるものがそこにはありました。ぜひ、広域人事の制度を活用して自分の幅を広げてみてください。経験したものだけが、見える景色がそこにはあります。

(広域異動終了者)

氏名	戸澤 百合子	現任校	稚内市立稚内東中学校 (宗谷)	前任校	旭川市立北星中学校 (上川)
----	--------	-----	-----------------	-----	----------------

○現任校での勤務状況

3年間の広域人事交流を終え、稚内市立稚内東中学校に赴任して2年が経ちました。1年目は1年生35名の担任、1、3年生の教科指導(英語)、吹奏楽部の副顧問などを経験させて頂きました。2年目は小学校外国語巡回指導員として市内6校の小学校を回り、先生方や子ども達の外国語学習をサポートさせて頂いています。今年限りの業務ですが、とても勉強になっています。



○広域異動により経験できたこと

【大規模校での勤務】上川に異動する前は単学級校での経験しかなく、大規模校での勤務に自信が持てませんでした。しかし、広域人事交流で1学年3～4学級編成の学校に勤務したことで、その点に関する不安は解消されました。

【学年部会の強み】旭川では1年生を担当することになりました。何も知らない環境で担任をもつことに不安はありませんでしたが、学年団にはベテランの先生方ばかり！3年間いろいろなことを教えて頂きながら過ごすことができました。特に生徒指導事例に関しては1人で対応しきれないことが多くありましたが、素直に「助けてください」とSOSを発信することができました。自分の学級の事例であっても、みんなで考え、チーム(学年)一丸となって指導にあたることができましたと思います。一緒に学年を組んだ先生方には本当に感謝しています。

【教科指導】初任校や2校目では1人で全学年の教科指導にあたってきました。自分なりに勉強しながら授業を行っていましたが、これでいいのだろうかと思悩む毎日でした。北星中学校には英語教育の大先輩がおり、さまざまな指導方法を学ばせて頂きました。校内だけでなく市教研部会でも経験豊かな先生方の授業を見させて頂いたり、お話をさせて頂いたりする機会がありました。若手の先生方の存在も自分にとってはとても刺激になりました。どこの地域にいても教科指導の研究はできますが、授業作りの相談を気軽にできる相手が校内にいるという環境はとてもよかったです。また、研修会にも積極的に参加することができました。

○広域異動の期間中に苦労したこと

【部活指導】赴任してすぐに驚いたことは部活動の日数です。自分が今まで勤務した学校では、体育祭や文化祭などの大きな行事の前は部活動が休みになっていました。しかし、旭川では春休み中も体育祭前も部活動が行われていました。最初はそのペースに慣れることができず、休めない状況を辛く感じました。しかし、他の先生方の働き方を見ると、早朝や空いた時間を効率的に使い、プライベートの時間もしっかりと確保されているようでした。また、家庭訪問や会議の時間の取り方も勤務時間を意識して工夫されていました。自分の仕事への取り組み方や勤務時間への考え方を見直すようになりました。

【生徒指導】子ども達の生活環境が宗谷と旭川では大きく異なるので、発生する生徒指導の内容も変わってきます。事例発生は好ましいことではありませんが、そういった経験も自分にとっては必要なことだったと思います。

○広域人事異動を希望する教員へのメッセージ

私は広域人事交流制度を利用してよかったと思っています。都市部での勤務は辛いこともありましたが、それ以上に得られたものは大きいと思います。自分の指導力がどれほど向上したかはわかりませんが、新たな視点や考え方をもつことができたと思います。慣れない環境に飛び込むことは不安もあると思いますが、ステップアップにつながる貴重な経験になると思います。

(広域異動終了者)

氏名	面 由佳	現任校	北見市立高栄中学校 (オホーツク)	前任校	旭川市立緑が丘中学校 (上川)
----	------	-----	-------------------	-----	-----------------

○現任校での勤務状況

赴任1年目で、1年生の担任をしています。1学年は4学級あり、1学級29名前後で構成されています。全校生徒は340名です。1学年4クラス、2学年3クラス、3学年4クラス、支援学級が4クラスです。笑顔で挨拶をする生徒が多く、活気にあふれています。教員生活で同じ授業を4回するのは初めてで、授業の構成を振り返るよい機会となっています。



○広域異動により経験できたこと

1年目に校内の研究授業で授業をさせていただきました。担当学級の1年6組のみが学校に残り、午後から学校全体で研修授業に臨みました。当時の1学年は7学級あり、研究授業の前に同じ指導案を使用して各クラスで各担任の先生が6回授業を実施し、参観することができイメージをつかむことができました。授業後には、学年で話し合いを重ねて指導案を改良していき、研究授業に臨みました。校内だけでも約50人の先生方がおり、授業を参観して頂き、その後の研究協議でも多くの意見を頂き、大変貴重な経験を積むことができました。特に、学年で話し合いを重ねたことで深い学びを得ることができたと感じています。

また、大きな学校に所属することができたため、多くの先生方と触れ合うことができました。その中で諸先輩方の生徒と関わる姿勢やリーダーシップ、学校・学級運営を身近で見ることができ、学年一丸となって生徒の成長に携わる大切さを改めて学ぶことができました。

○広域異動の期間中に苦労したこと

大学を卒業して2年間旭川に期限付き教諭として勤めており、当時お世話になった先生方が緑が丘中学校にいらっしまったため、大変心強く過ごすことができ、苦労したことは特にはなかったです。強いてあげると、通勤に30分弱かかったことが苦労したことで、遅くなったときは近くのコンビニに寄り、夜ご飯を車でとりながら帰宅することもしばしばありました。しかし、通勤時間の30分はその日の流れを考えたり、英検のリスニングCDを聴いたりといよい時間となりました。

○広域人事異動を希望する教員へのメッセージ

3年間という短い期間でしたが、学校での経験、地域での経験(資格取得や、講演会・学習会参加など)を積むことができ、充実した日々を送ることができました。当時の学校の目標に「かかわり」とありましたが、旭川での生活は「人との出逢い、かかわり」が自分を大きく成長させてくれたように感じます。学びを深めたい、自分を成長させていきたいと考えている方は、ぜひこの機会を使って志望するとよいかと思います。



(広域異動終了者)

氏名	植村 顕	現任校	幕別町立明倫小学校（十勝）	前任校	遠軽町立白滝小学校（オホーツク）
----	------	-----	---------------	-----	------------------

○現任校での勤務状況

平成30年度の終わりに、白滝小学校での3年間の勤務を終えて、オホーツクの地を離れました。そして十勝に戻り、平成31（令和元）年度の4月より幕別町立明倫小学校に赴任しました。3月まで全校児童が23名だったのに対し、4月からは6名になりました。明倫小学校は、1，2年生4名で1学級、4，6年生2名で1学級の合計2学級ということで、教頭・養護教諭・事務職員がいない学校です。そんな中今年度は、4，6年生の2名の学級を受け持っています。「よく考える子ども」「みんなで助け合う子ども」「さいごまでがんばる子ども」の学校教育目標のもと、日々の実践に取り組んでいます。



○広域異動により経験できたこと

やはり最も大きかった収穫は、「人とのつながり」だったと思います。保護者とのつながりはもちろんのこと、地域のイベントに積極的に参加したことや、地域のミニバレー協会に所属し週2回の練習に参加したことで、地域の方々とのつながりもできました。赴任した当初は、公共機関や商店など行く先々で「この人誰なんだろう。」という雰囲気がありました。月日とともに親しくなり、最後は温かく送り出してくださいました。また、観光（短期間）では味わえないオホーツクの魅力を経験できたことも大きな収穫でした。

○広域異動の期間中に苦労したこと

遠軽町白滝は、3つの『道』（国道、高規格道、鉄道）が通っていたので、よほどのことがない限りは交通の便で苦労したことはありませんでした。ただ、大雪と吹雪が重なった時は、外に出ることができず、食料確保の面で苦労したことはありました。あとは、文化的なことや地域の慣習等に関しては、十勝とほとんど変わりなかったので、苦労しませんでした。

○広域人事異動を希望する教員へのメッセージ



広域人事異動の期間を充実したものにするためには、まず「地域に溶け込む」ことが大切だと思います。私の場合は単身赴任だったので、時間的なゆとりはありました。ですから土・日にイベントがあった時は可能な限り参加し、時には準備や片付けの手伝いもしました。そういったことを繰り返すことで、地域の方々に顔を覚えてもらい、何かと気にかけてくださるようになりました。仕事の面では、期間が限られていたので、思い切って色々なことにチャレンジしました。研修会にも極力参加するようにしました。同僚とも機会をつくって夜の研修も深めるようにしました。終わってみると3年間は早かったです。ですが、密度の濃い3年間になりました。これから広域人事異動を希望される先生方、自ら地域に入っていけばきっと楽しい生活が待っていると思いますよ。

(広域異動終了者)

氏名	阿部 均紀	現任校	釧路町立富原中学校（釧路）	前任校	帯広市立大空中学校（十勝）
----	-------	-----	---------------	-----	---------------

○現任校での勤務状況

【組織】1年3組28名の担任をさせて頂いています。学級数は前任校よりも多いですが、学級の生徒の人数はあまり変わらないので、前任校で経験したことがそのまま生かされています。これまで赴任した学校の中で一番大きい学校なので、組織的な動きや繋がりに不明な点も多いですが、先輩の先生方から声を掛けて頂き、何とか過ごすことができています。



【教科】1年生3学級と3年生1学級の数学を担当しています。数学が苦手な生徒も多く、「わかる」「できる」を感じてもらい「数が苦」ではなく「数楽」になるよう『学び合い』を意識した授業づくりに励んでいます。教材研究がとても大変ですが、生徒の思考の流れを考え、授業ごとに改善しながら、これからも研究を続けていきたいと思っています。

【分掌】研修部を担当しており、今年度は学校力の向上と道徳の授業力向上に向けた研究に取り組んでいます。定期的に全体研修日が設けられており、経験年数に関係なく、教員としての資質・能力の向上を目指したメンター研修なども進められています。

【部活動】バスケットボール部を担当しています。まだ半年しか経っていませんが、コーチとして選手から多くのことを学ばせてもらっています。選手たちが立てた目標を達成できるようコーチである私が一番学び続けなければならないと強く感じています。スポーツを通して、様々なことを学んでほしいとも思っているので、選手と向き合って頑張っていきます。

○広域異動により経験できたこと

十勝管内では、多くの中学校でジャージ登校が採用されており、儀式的行事や定期テスト、学力テスト、その他学校行事の内容により、適宜制服を着用することになっています。ジャージ登校で楽だから良い、という意味ではなく、毎年気温が高くなってきている日々が続く、生徒が体温調節しやすいこと、その際に起こりうる身だしなみの乱れなどを考えると、とても効率が良いのではないかと感じました。また、国語科の書道や体育科、美術科、技術家庭科の授業では、限られた休み時間の中で、着替えなければならず、生徒の負担にもなっているのではないかと考えます。次のカテゴリーのことを考えると、制服を着ることが大切かもしれませんが、それは次のカテゴリーでも経験できます。そう考えると、義務教育中の服装（身だしなみ）について考えることも大切なのではないかと感じています。

○広域異動の期間中に苦労したこと

前任校では、初めて研修部に所属させて頂き、一からのスタートだったのでとても不安でした。しかし、先輩の先生方からご指導をいただき、分掌の中で少しずつ話す内容がわかるようになっていきました。生徒や先生方に還元できる研修や研究をどのように取り入れるのか。また、日々の授業実践で教職員の共通認識のもとで進めていく難しさも同時に学ぶことができました。3年目の最後の年には、公開研究会を行うことにもなり、公開研究会を進める準備や紀要の作成、研究発表など、たくさんの貴重な経験をさせて頂きました。

○広域人事異動を希望する教員へのメッセージ

広域人事異動では、小規模校から大規模校へ、大規模校から小規模校へと経験が浅い学校規模への異動も考えて頂けると思いますので、他の管内における学校規模の状況を知ることができます。そこで経験したことや実践していることの良さを次の管内で生かすことで、互いの良さを取り入れ、より良い学校づくりの橋渡しの役目を担えるのも確かだと考えています。多くの素敵な先生方と出会える人事異動ではないでしょうか。



(広域異動終了者)

氏名	大槻 翔士	現任校	中標津町立広陵中学校 (根室)	前任校	音更町立共栄中学校 (十勝)
----	-------	-----	-----------------	-----	----------------

○ 現任校での勤務状況 【担当学年】…1 学年 【校務分掌】…生徒指導部



中標津町立広陵中学校は、全校生徒305名の学校です。「話をきちんと聴く」「元気な挨拶・返事」「みんなが安心できる学校生活」の頭文字をとった【は・げ・み】を学校生活のスローガンとして掲げ、より良い学校生活を目指して生活しています。また、地域の道路清掃やタワラマップ川のゴミ拾い、空きビンや古紙の回収など、ボランティア活動が学校の良き伝統として受け継がれていることも特色の一つです。保護者や地域の方々は、学校の教育活動に大変協力的で、PTA活動も盛んに行われています。

今年度は、1年生33名の担任を受け持っています。授業は、1年生3クラス、2年生3クラスの計6クラスの保健体育を担当しており、多くの生徒と関わりながら、充実した毎日を過ごしています。校務分掌は、生徒指導部を担当しています。生徒の生活態度が落ち着いているため、目立った問題行動は見られませんが、現状に油断せず、今ある姿をより良いものにし、学校の良き伝統として後継していけるよう、積極的生徒指導に努めた学校生活を心掛けています。部活動は、野球部を担当しています。自身の専門分野で監督を務めるのは数年振りなので多少の緊張はありますが、生徒の成長のため、これまでの経験を活かした部活動指導ができるよう全力を尽くしたいと思います。

○ 広域異動により経験できたこと

これまでになかった新たな繋がりをもてたことが何より大きな経験です。十勝管内の保健体育科の先生方と教科指導に関する交流ができたことや、野球以外の指導者との繋がりができたことで、学校教育に対する視野が広がりました。



○ 広域異動の期間中に苦労したこと

専門外の部活動を担当したことが、広域異動の期間中に最も苦労したことです。しかし、この経験によって、専門の部活動をもてることがいかに有り難いことかを今まで以上に実感することができました。



○ 広域人事異動を希望する教員へのメッセージ

学校規模や教員の年齢層など含め、それぞれの学校の特色にもよるとは思いますが、とにかく多くの刺激を味わえます。学校教育に対する自身の考えを見直す良い機会となることは間違いありません。私の場合、ベテランの先生方が多くいる職場だったため、積極的に意見交換をし、教科指導や生徒指導、進路指導など、様々な指導法について考えを深めることができました。また、校内研修が活発に行われている学校だったこともあり、着実に知識と経験を重ねられているという実感をもちながら働くことができました。